



ごみ減量・リサイクル通信

発行/編集 青梅市環境部清掃リサイクル課

〒198-8701 青梅市東青梅 1-11-1 ☎0428-22-1111 (内線 2336~2339)

よく見てね そこにもあるよ しげんがね

青梅市小学生ごみ減量化・資源リサイクル推進キャッチフレーズコンクール 最優秀賞作品 小山瑠唯さん(4年生)

正しく分別！！賢く節約！！

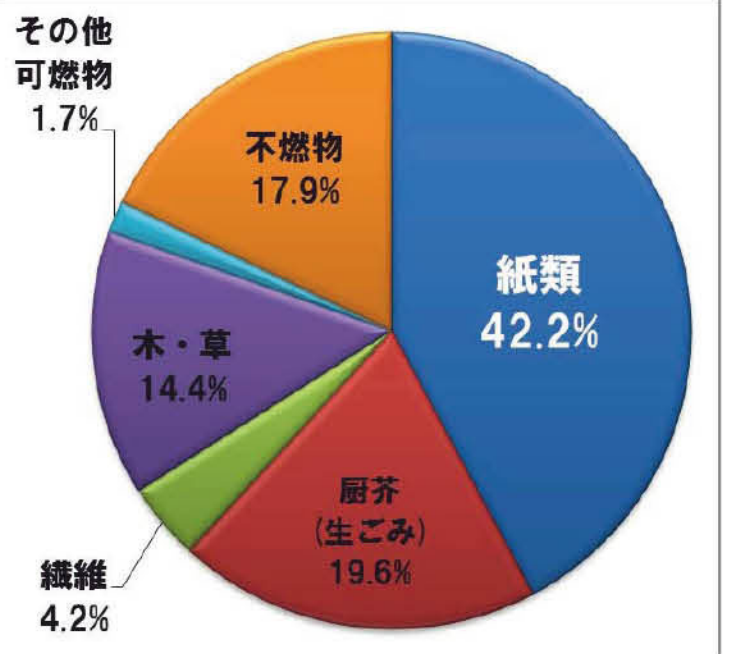
燃やすごみの内 42% が紙類!!

わたしたちが出した燃やすごみを焼却している「西多摩衛生組合（青梅市・羽村市・福生市・瑞穂町から構成）」では、毎年、燃やすごみとして出されたものにどのようなごみが含まれているか調査を行っています。

これを「組成分析」と言いますが、右の円グラフは、平成 27 年度に実施した、燃やすごみとして出されたごみの組成を表したものです。

平成 27 年度の西多摩衛生組合に出された「燃やすごみ」の量は、59,161 トンで、このうち 42.2% の 24,966 トン（推計値）が紙類でした。雑紙などの資源であっても、燃やすごみとして出された紙類は、リサイクルされずに焼却処分されてしまいますので、ごみを出す際には、今一度、燃やすごみの中を確認してみてください。もしかしたら、資源となる紙が入っているかもしれません。

平成 27 年度の
可燃ごみ組成率



小さな紙でも資源になります!!

もし、これから出そうとしているごみ袋が左の写真のようになっていたら要注意です。これでは、紙もごみ袋も・・・

もったいない!!!

燃やすごみとして多く混入しているのがメモ用紙や名刺サイズの小さな紙で、これらも「雑紙」として出していただければ立派な資源としてリサイクルすることができます。

意外とかさ張る雑紙を今のまま燃やすごみとして出していると、その分、燃やすごみの袋が必要になってしまいます。

逆に言えば、正しく分別できれば、燃やすごみの減量になり、ごみ袋の節約にもつながります。

ぜひ、この機会に分別を見直して、燃やすごみの減量にご協力をお願いします。



ごみは朝8時までに出しましょう!

雑誌・雑紙出し方のポイント

▼出し方の基本

雑誌・雑紙は、毎月第2水曜日に回収しています。出す際には、右の写真のようにひもで束ねて出してください。

その際、雑誌と雑紙を一緒に束ねても構いません。

また、**雨の日でも通常通りに回収を行っております。**

濡れても資源になりますので、**ビニール袋などはかぶせずにそのまま、いつも出している場所に出してください。**



紙ひもならひも自体も資源となるケロ!

▼メモ用紙などは紙袋や封筒に入れて出しましょう

燃やすごみによく混入しているのは、メモ用紙や名刺などの細かい雑紙です。

もちろんシュレッダーした紙も立派な資源となりますので、右の写真のようにいらない封筒や紙袋に入れて出しましょう。ごみ箱の隣やよく使う場所に雑紙入れとして用意しておくとも便利です。

とは言っても、ちょうどいい封筒や紙袋が無いこともあるかと思いますが、そんな時でも大丈夫です。

次のページでは、読み終わった広報やチラシで作れる「**雑紙リサイクル袋**」のつくり方をご紹介します。

少し手間かもしれませんが、封筒や紙袋が無い時には大変便利です。ぜひ作ってみてください。

小さい雑紙は封筒や紙袋に入れると便利ケロ



▼出す時の注意点

封筒や紙袋に入れて出す際、中身が飛び出ないように、右の写真のように口をひもで縛ってから、他の雑誌などと一緒に出してください。

ティッシュの箱や窓付き封筒など、フィルムなどの異物が付いている雑紙は、異物となる部分を取り除いてから出してください。



▼紙でも資源にならない紙もあります

私たちが出した雑誌・雑紙は、製紙工場では原材料として再利用され、再び商品として皆さんの手に戻ってきます。しかし、紙でも、中には資源にならない紙もあり、「**禁忌品(きんきひん)**」とされています。

主な禁忌品は下記のとおりです。禁忌品の紙類が雑誌・雑紙に含まれていると、リサイクルした際、シミや臭いが残ってしまう他、衛生上の問題が出てしまうなど、せっかくリサイクルされても商品価値がなくなって無駄になってしまいます。

ぜひとも、資源になる紙類は、「雑誌・雑紙」として、禁忌品の紙類は「燃やすごみ」として出すよう分別の徹底にご協力をお願いします。

※主な禁忌品

- ★使用済のティッシュ★油などで汚れた紙★防水加工された紙(紙コップ・紙皿など)★臭いのついた紙★圧着はがき(親展はがき)★宅配伝票のような粘着剤の付着した紙★感熱紙(レシートやファックス用紙など)★カーボン紙・ノンカーボン紙など



雑紙リサイクル袋を作ってみよう!!

① 広報などリサイクルできる紙を用意しましょう



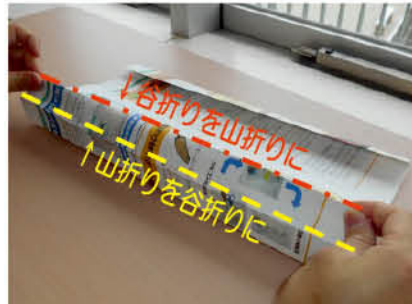
② 筒状にします
斜線部が1~2cm程度、重なるよう両側から折り、のりをつけます



③ マチ(側面)をつくります
両側を折ります



④ ③で折った部分を内側に折り返し、写真(下↓)のようにします



⑤ 片側も同じように折ると、写真のようになります



⑥ 底を作ります
マチとして折った分の3倍を目安に下から折ります



⑦ ⑥で折った部分を広げて箱状にします



⑧ 両側をたたみます



⑨ 写真に示した部分にのりをつけます



⑩ 点線の部分からおり、しっかりとのり付けします



⑪ 反対側も同様におり、のり付けして整えます



⑫



青梅市のごみ処理費用は？

市民1人あたり年間
18,748円

1世帯あたり年間
41,515円

ごみ1kgあたりの経費
67円

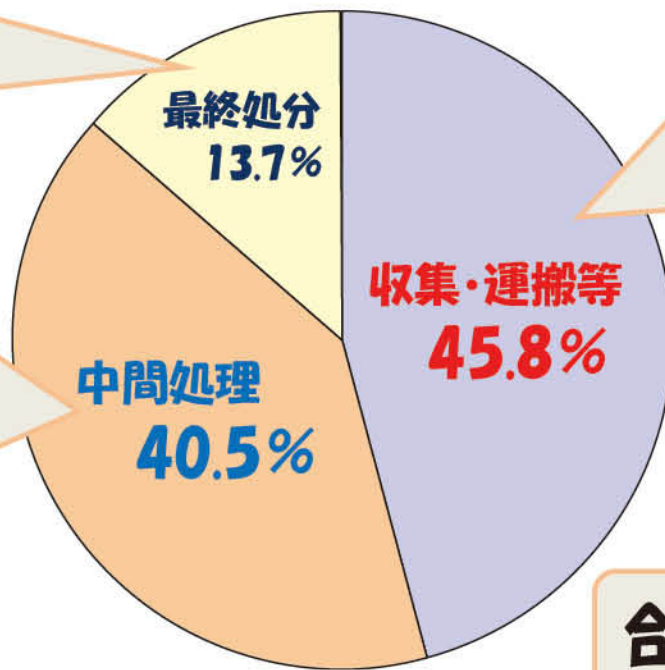
平成27年度 ごみ処理経費の内訳

3億4,747万円

- 東京たま広域資源循環組合(最終処分場)負担金 **3億3,969万円**
- 有害ごみ対策経費 **777万円**

10億5,238万円

- 西多摩衛生組合(焼却施設)負担金 **7億1,963万円**
- リサイクルセンター管理・施設整備経費等(燃やさないごみや容器包装プラスチックごみの選別処理など) **3億3,275万円**



11億6,568万円

- 収集・運搬委託料等 **9億6,923万円**
- 清掃総務費(ごみ収集カレンダー、施設見学会、ごみ情報誌発行等のごみ減量対策費など) **1億5,606万円**
- じんかい処理費(施設管理経費など) **4,039万円**

合計 25億6,553万円

平成27年度の青梅市におけるごみ処理経費は25億6,553万円かかっており、一般会計(歳出)に占める割合は5.2%です。



「ごみひろ 護美拾い合戦」を実施しました!



ごみを探す参加者

護美拾い合戦とは、ただ、ごみを拾って歩くのではなく、チームごとに拾ったごみの量や質、歩いた歩数に応じて点数をつけ、その獲得した点数の多少によって勝敗を決めるというイベントで、平成28年10月30日(日)、御岳溪谷を会場に実施しました。

このイベント開催に合わせて、護美拾い合戦イメージキャラクターとして「護美 減三郎(ごみ げんざぶろう)」(左上、黒の甲冑)と「護美 少右衛門(ごみ しょうえもん)」(右上、赤の甲冑)も誕生し、イベントには護美 減三郎も参加しました。

今回が初めての実施にも関わらず、市民の方以外にも、市外の方にもご参加いただき、7チーム32名の参加者が護美 減三郎とともに汗を流しました。2時間ほどの実施時間でしたが、合計で90kgを超える量のごみが集まり、参加された方からは、好評のお声を頂きました。



参加者と護美減三郎(写真右)

この「護美拾い合戦」は、老若男女問わず、どなたでも参加できるイベントですので、自治会や子供会などで行う交流イベントとしてご活用してみたいはいかがでしょうか。

ご興味を持たれた方は、実施マニュアルも用意しておりますので、清掃リサイクル課もしくは、スポーツ推進課までご相談ください。